Nihonbashi Opera Tokyo 2022

OPERA GALA
CONCERT

I R I S
Madame_Chrysanthème
Madama_Butterfly
A I D A

Saturday, December 3, 2022 Nihonbashi Theater Tokyo

日本橋オペラ 2022

オペラ・ガラ・コンサート

イリス・お菊さん・蝶々夫人

アイーダ

日本橋オペラ NIHONBASHI OPERA TOKYO

ARTS for the future! 2

2022 年 12 月 3 日（土）日本橋劇場

福田祥子
日本橋オペラ研究会会長

ご挨拶

本日は日本橋オペラ 2022 オペラ・ガラ・コンサートにご来場頂きありがとうございます。本公演は文化庁 ARTS for the future! 2(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業) の助成を受けての公演となります。新型コロナウイルスによるパンデミックから 3 年が経過しました。日本橋オペラでも、2020 年に予定していた歌劇「お菊さん」日本初演が 2021 年に延期になるなどの影響がありましたが、文化庁や東京都の「文化の継続」を目的とした助成制度のおかげで、この間、これまで以上に充実したオペラ活動を行なっています。上記の歌劇「お菊さん」は、音楽の友誌などでも紹介されましたが、「日本のオペラ年鑑 2021」に写真入りで掲載していただけることになり、文字通り日本の音楽史に足跡を刻むことができました。ご報告すると共に、改めて皆様とその喜びを分かち合いたいと思います。

さて本日のプログラム前半は、日本橋オペラがこれまで上演してきた日本をテーマとするオペラ「イリス」「お菊さん」「蝶々夫人」からいくつかの場面を、後半は「アイーダ」の「凱旋の場」を含む、第 1 幕と第 2 幕を抜粋して、セミステージとしてお楽しみ頂きます。なお来年 5 月 21 日（日）には日本橋オペラ創立 10 周年を記念して、当会場で「アイーダ」を全曲舞台上演する予定です。「アイーダ」は最も大規模なオペラとして知られていますが、日本橋オペラでは 30 名の出演者により上演いたします。また本日は、金管五重奏、打楽器、ピアノのアンサンブルによる新編曲をお披露目します。楽譜は公演後インターネットの無料楽譜ライブラリー「ペトルッチ」で公開され、世界中で演奏されます。ちなみに日本橋オペラでは、これまでの公演で使用した室内楽版オペラ編曲譜を公開していますが、今回のコロナ禍で、大規模オーケストラで上演のできなかった世界の歌劇場から注目され、ドイツ、イギリス、イタリア、アメリカなどで、この楽譜を使用してオペラが上演されました。

アイーダの舞台エジプトといえばピラミッドで有名ですが、私たちはバランスの良いピラミッドを造りたいと願っています。バランスの良いピラミッドとは、充実した底辺とその上に幾層もの、文字通りバランスの良い層があってこそ、輝かしい頂点があります。別な言い方をすれば、文化というピラミッドを構成する音楽という一つの石、あるは音楽におけるオペラといういう一つの石です。そして日本橋オペラは、オペラ・ピラミッドの一つの石として支えていけたらと願っています。日本橋オペラへのご支援は、オペラ界を、音楽文化を、文化全体を、延いては人類の幸福と世界平和に繋がっています。皆様の暖かいご支援に感謝いたします。

プ ロ グ ラ ム

◆ マスカーニ作曲　歌劇「イリス」　太陽賛歌
Pietro Mascagni “IRIS”～ Inno del Sole

◆ メサジェ作曲　歌劇「お菊さん」
Andrè Messager “Madame Chrysanthème”
第1幕　フランス軍艦の長崎入港～芸者の登場
　お菊さん：福田祥子　お雪：高橋千夏　いちご：宇津木明香音
　勘五郎のアリア「旦那、旦那！」：飯沼友規

第3幕　南無阿弥陀仏～長崎くんち
　怒りの三重唱～お菊さん：福田祥子　ピエール：池本和憲　イヴ：森口賢二
　不知火の二重唱「夜に唄う竪琴」～お菊さん：森井美貴　お雪：高橋千夏
　ピエールのアリア「微かな貴女の息の根」：池本和憲

◆ プッチーニ作曲　歌劇「蝶々夫人」
Giacomo Puccini “Madama Butterfly”
　愛の二重唱～蝶々夫人：福田祥子　ピンカートン：村上敏明　スズキ：窪瑶子

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ 休憩（20分）～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

◆ ヴェルディ作曲　歌劇「アイーダ」第1幕～第2幕より（抜粋）
Giuseppe Verdi “Aida”
　アイーダ：福田祥子　ラダメス：村上敏明　国王：金子慧一　アムネリス：巖淵真理
　ランフィス：後藤春馬　アモナズロ：森口賢二　使者：飯沼友規　巫女長：高橋千夏

第1幕 メンフィス王の宮殿の広間～国王の登場
　使者「エジプトの神聖な地は侵略されております」
　国王「進め！ナイル川の神聖な岸辺へ」
　アイーダのアリア「勝ちて帰れ」
メンフィスの火の神の神殿～「偉大なるプタハの神よ！われら、御身に祈願せん！」

第2幕 アムネリスの居室～アイーダとアムネリスの二重唱
テーベの街～凱旋の場
　エジプトの民衆「栄光あれ、エジプトに、イシスの女神に」
　国王「来たれ！余の娘が勝利の冠をそちに戴かせようぞ」
　アモナズロ「王よ、この者どもに慈悲深くあることを乞い願う」
　ラダメス「王よ、このエチオピアの捕虜たちの生命と自由を願いたてまつります」
　エチオピアの奴隷「栄光あれ、慈悲深きエジプトに」
　アムネリス「さあ女奴隷よ、私から愛する人をとってごらん。やれるもんなら！」
　ランフィス、司祭「讃歌を歌おうぞ、イシスの女神に」
　ラダメス「エジプトの王座さえも、アイーダの心ほどの値打ちはない」
　アイーダ「私には忘却と、涙だけよ、この絶望的な愛の」
　国王・エジプトの民衆「栄光あれ、イシスの女神に！」

福田祥子（Shoko Fukuda）演出・ソプラノ／お菊さん役、蝶々夫人役、アイーダ役

大阪音楽大学ピアノ科卒業。大阪芸術大学大学院声楽専攻修了。第6回大阪国際音楽コンクール第2位。東京二期会オペラ研修所本科首席修了、優秀賞受賞。これまで、ワルキューレ、ジークフリート、神々の黄昏、トリスタンとイゾルデ、さまよえるオランダ人、タンホイザー、蝶々夫人、椿姫、ドン・カルロ、トゥーランドット、トスカ、イリス、オテッロ、イル・トロヴァトーレ、仮面舞踏会、エフゲニー・オネーギン、パリアッチ、お菊さん等に主役級の配役で出演。『圧倒的にして鮮烈な歌声と存在感。生まれながらのブリュンヒルデ』（音楽現代）と批評を受ける。日本人としては稀有の本格的ワーグナーソプラノでありながら、ヴェルディ、プッチーニといったイタリアオペラまで、広範囲のレパートリーを有する貴重な存在である。ウィーンとバイエルンの両国立歌劇場で研修を受け、近年はスタラ・ザゴラ国立歌劇場（ブルガリア）、コシチェ国立歌劇場（スロバキア）などで、蝶々夫人、トスカの主役として度々出演、絶賛されている。また日本各地をはじめ、オーストリア、ドイツ、ブルガリア、チェコ、トルコ、イスラエル、フィリピンなどで、リサイタルやオーケストラと共演をしている。東京二期会、関西二期会各会員。日本橋オペラ会長。

佐々木 修（Osamu Sasaki）／指揮・編曲

青森県弘前市出身。武蔵野音楽大学卒業。オーストリア政府奨学生。モーツァルテウム音楽大学指揮科最優秀卒業。カラヤン、チェリビダッケなどの巨匠に師事。モーツァルテウム音楽大学オーケストラ常任指揮者をつとめる。1979 年カラヤン国際指揮者コンクール入賞。1982 年東洋人として初めてザルツブルク国際モーツァルト週間で指揮「心から自然でしなやか、新鮮なモーツァルト指揮者」（オペラ・コンツェルト誌）と好評を受け、国際モーツァルテウム財団よりパウムガルトナーメダルを授与される。1984 年ベルリン・ドイツ響を指揮してベルリンフィルハーモニーホールでドイツデビュー。帰国後、日本各地のオーケストラや合唱を指揮。また NHK-FM シンフォニーコンサート等のパーソナリティ、タモリの音楽は世界だ！等の音楽番組制作、映像・CD・WEB 制作、AI 特許、女性のためのモバイルコンテンツ「ルナルナ」の創設、開発に携わるなど、マルチなタレントで活躍。（株）マエストロ代表取締役。日本橋オペラ常任指揮者。

北村晶子（Akiko Kitamura）ピアノ

桐朋女子高等学校音楽科、同大学音楽学部卒業。イタリアにて研鑽を積む。リサイタルの他「建国記念日を祝う会」では内閣総理大臣の前にて独奏。オーケストラとも多数共演。新国立劇場オペラ研修所講師を経て、浜離宮朝日ホール主催のマイクロオペラシリーズや京都コンサートホールオペラ公演、港区民オペラ「椿姫」の音楽監督を務めるなど声楽家から絶大な信頼が寄せられている。NHK・FM リサイタル、名曲コンサート、ラジオ深夜便、TV 東京「たけしの誰でもピカソ」等メディアにも出演。2017 年「ラプソディー・イン・ブルー」をオーケストラと演奏し好評を博した。コレペティトゥールとして多くの声楽家を指導している。日本演奏連盟会員。

金管五重奏 “ブラス・カブリオール”

Theater Orchestra Tokyoの金管楽器首席メンバーを中心としたアンサンブル

トランペット：佐藤秀徳（Shutoku Sato）、林千紗（Chisa Hayashi）
ホルン：鈴木希恵（Kie Suzuki）トロンボーン：梅澤駿佑（Shunsuke Umezawa）
テューバ：田村相円（Soen Tamura）

打楽器：天野佳和（Yoshikazu Amano）　東京交響楽団団友

村上敏明（Toshiaki Murakami）テノール／ピンカートン役（蝶々夫人）、ラダメス役（アイーダ）

人気実力ともに、日本を代表するテノール歌手。国立音楽大学声楽学科卒業。文化庁在外研修員として 6 年間ボローニャに留学。2002 年マンチネッリ劇場にて「リゴレット」マントヴァ公爵でヨーロッパデビュー。藤原歌劇団・新国立劇場等で、多くのオペラ公演に主演し、常に最大級の賛辞を受けている。第 9 回マダムバタフライ世界コンクール優勝のほか、15 の国際声楽コンクールで優勝または上位入賞。第 40 回日伊声楽コンコルソ第 1 位、第 35 回イタリア声楽コンコルソシエナ大賞の国内 2 大タイトルを獲得する。2012 年から NHK ニューイヤーオペラコンサートに 11 年連続出演。平成 16 年度五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。八王子コミュニティオペラ芸術監督。勝浦歌劇団総監督。藤原歌劇団団員。
村上敏明公式ウェブサイト https://www.iltenoremurakami.com/

池本和憲（Kazunori　Ikemoto）テノール／ピエール役（お菊さん）

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。日伊声楽コンコルソ入選、イタリアにて修学後、「蝶々夫人」ピンカートン役で新国立劇場にデビュー。同劇場にて世界的歌手と共演。藤原歌劇団公演、埼玉オペラ協会公演、宮本亜門演出「キャンディード」総督役で出演する等、オペレッタ、ミュージカルに至るまで、幅広いレパートリーで活動を展開。ワーグナー「神々の黄昏」ジークフリート役、「トリスタンとイゾルデ」トリスタン役を 3 つのプロダクションで出演、ヘルデンテノールとしても活躍。TV 出演、文化庁主催学校公演、またアマチュア合唱団の指導者としても多くの合唱祭、定期演奏会を企画、指揮している。CD「マザーテレサの祈り」リリース。

森口賢二（Kenji Moriguchi ）バリトン／イヴ役（お菊さん）、アモナズロ役（アイーダ）

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。文化庁新進芸術家海外派遣制度研修員としてイタリアに留学。第 22 回飯塚新人音楽コンクール第 1 位。第 36 回ローマフェスティヴァル国際コンクール第 1 位。藤原歌劇団公演には、ランスへの旅、ラ・ボエーム、愛の妙薬、セビリアの理髪師、オリィ伯爵、ファルスタッフ、椿姫、仮面舞踏会、ドン・パスクワーレ、道化師、イル・カンピエッロ等に出演。日本オペラ協会公演には、天守物語、ミスター・シンデレラ、静と義経等に出演。また新国立劇場公演には、マノン・レスコー、ウェルテル、ラ・ボエーム、ホフマン物語、トゥーランドット、カルメン等に出演し、いずれも好評を博す。日本オペラ協会会員。藤原歌劇団団員。オペラサロントナカイ・アーティスティックディレクター。

飯沼友規（Tomoki Iinuma）／勘五郎役（お菊さん）、使者役（アイーダ）

千葉市出身。日本大学芸術学部音楽学科声楽専攻を首席で卒業。同大学院芸術学研究科音楽芸術専攻博士前期課程を修了。学部卒業時に芸術学部長賞を受賞。読売新人演奏会に出演。これまでに、「椿姫」（アルフレード）、「外套」（ルイージ）、「ナブッコ」（イズマエーレ）、「愛の妙薬」（ネモリーノ）、「こうもり」（アイゼンシュタイン）など、主要キャストとして多数出演。大学卒業後、イタリア留学で研鑽を積み、近年では演奏会の企画、構成、演出も行なっている。また、イタリアで得た技術をもとに、合唱団や個人の指導にも精力的に取り組んでいる。声楽を Lina Vasta、中島基晴、丹羽勝海の諸氏に師事。

金子慧一（Keiichi Kaneko）バス／エジプト国王役（アイーダ）

北海道出身。東京音楽大学卒業。これまで東京二期会では『アルチーナ』メリッソ、『魔笛』武士 II、『タンホイザー』ラインマル、『ローエングリン』ブラバントの貴族などを演じており、日生劇場では『ルチア』ライモンド、『トスカ』シャッローネで出演。また、新国立劇場では『セヴィリアの理髪師』バジリオ、『椿姫』グランヴィル、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・シュヴァルツ、『イオランタ』ルネ王のカヴァーキャストを務める。今後は、東京春音楽祭『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・シュヴァルツ、新国立劇場『サロメ』兵士 1、日生劇場『マクベス』医者、などの出演が決定している。二期会会員。

巖淵真理（Mari Iwabuchi）メゾソプラノ ／アムネリス役（アイーダ）

国立音楽大学ピアノ科卒、同大学院オペラコース修了。新国立劇場オペラ研修所第 1 期修了。文化庁芸術在外研修員としてイタリアに留学。ジェノヴァ・カルロフェリーチェ劇場アウディトリウムシーズン公演、サンタマルゲリータ・リグレサマーフェスティバルオペラ公演に出演。これまでに「アイーダ」アムネリス、「イル・トロヴァトーレ 」アズチェーナ、「ドン・カルロ」エボリ公妃、「カヴァレリア・ルスティカーナ」サントゥッツァ、「ノルマ」アダルジーザ他。ヴェルディ「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」他ソロを務める。ヴィアレッジョ国際声楽コンクール第二位。二期会会員。

後藤春馬（Kazuma Goto）バス ／ランフィス役（アイーダ）

国立音楽大学卒業。新国立劇場オペラ研修所修了。文化庁海外研修員としてロンドンへ留学。その後、オランダ国立オペラアカデミー修了。『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロで欧州デビューを飾る。2012 年パシフィック・ミュージック・フェスティバルに合格し、指揮者ファビオ・ルイージと共演。これまで、『フィガロの結婚』フィガロ、『カルメン』エスカミーリョ、『アルジェのイタリア女』ムスタファ等数々のオペラに出演し、いずれも高い評価を得ている。バロックから現代音楽まで幅広いジャンル、言語のレパートリーを持ち、オランダ・コンセルトヘボウでのコンサートに出演。「第九」「メサイヤ」等のソリストもつとめる。昭和音楽大学非常勤講師。二期会会員。

高橋千夏（Chinatsu Takahashi）ソプラノ／お雪役（お菊さん）、巫女長（アイーダ）

昭和音楽大学卒業。第 1 回日本歌曲コンクール奨励賞受賞。W. マッテウッツィ、M. デヴィーア、D. マッツォーラ各氏によるマスタークラスを受講。第 82 回読売新人演奏会に出演。『修道女アンジェリカ』タイトルロール、『カルメン』フラスキータ役、『フィガロの結婚』スザンナ役、『お菊さん』（日本初演）お雪役などに出演、音楽の友、モーストリー・クラシックなどの好評を得る。

森井美貴（Miki Morii）ソプラノ／お菊さん役、アンサンブル

大阪音楽大学卒業、同大学専攻科修了。第 34 回飯塚新人音楽コンクール第一位・文部科学大臣賞を授与しイタリアに留学。また、なにわ芸術祭新人賞・大阪府知事賞・大阪市長賞、KOBE 国際音楽コンクール最優秀賞・兵庫県知事賞、佐川吉男音楽賞等多数受賞。これまでに、椿姫、魔笛、道化師、友人フリッツ、メリーウィドウ等に出演。NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」に出演。関西二期会準会員。

小宅慶子（Keiko Oyake）ソプラノ／アンサンブル

東京音楽大学声楽専攻声楽演奏家コース卒業。伊藤和子、片岡敬、水野貴子、小森輝彦、武田正雄、松井理恵の各氏に師事。これまで『トゥーランドット』侍女役、『修道女アンジェリカ』オスミーナ役、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラ役などに出演。北区文化財団アーティストバンクとガルバホールの登録アーティスト。

石井揚子（Yoko Ishii）ソプラノ／アンサンブル

法政大学法学部卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。オペラではこれまでに「人の声」女役、「子供と呪文」子供役、「サンドリヨン」サンドリヨン役、「カルメル派修道女の対話」ブランシュ役、「チェネレントラ」クロリンダ役等に出演。藤原歌劇団準団員、日本オペラ協会準会員。

伊藤いずみ（Izumi Ito）ソプラノ／アンサンブル

洗足学園音楽大学声楽コース卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第 41 期生修了。現在、藤原歌劇団準団員及び日本オペラ協会準会員。《ヘンゼルとグレーテル》眠りの精役、《魔笛》侍女 II 役、《ラ・ボエーム》ムゼッタ役などに出演。これまでに須永尚子、佐藤亜希子、南條年章の各氏に師事。

窪 瑶子（Yoko Kubo）メゾソプラノ／アンサンブル

日本大学芸術学部音楽学科卒業。東京音楽大学大学院オペラ研究領域修了。第 57 期二期会オペラ研修所修了。2011 年スペイン音楽国際講習会に、スペイン政府の奨学金を得て参加。第 48 回新潟県音楽コンクール声楽部門最優秀賞を受賞。二期会スペイン音楽研究会会員。二期会準会員。ラファーレ、アリアス、劇団東俳講師。

宇津木明香音（Akane Utsuki）メゾソプラノ／いちご役（お菊さん）、アンサンブル

昭和音楽大学卒業。同大学院修了。大森智子、松浦麗の各氏に師事。昭和音楽大学オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」ドラベッラ役でデビュー。これまで「ファルスタッフ」クイックリー役、「カヴァレリア・ルスティカーナ」ルチア役、「修道女アンジェリカ」修道院長役、「フィガロの結婚」マルチェッリーナ役などに出演。

布目紗綾（Saya Nunome）バレエ

クラシックバレエダンサーとして活躍する他、「バレエジャンパー ®」を SNS 上で展開し多くのマスコミ媒体に掲載される。「バレエ にゃんぱー ®」キャラクターの作者。ヨコハマ コンペティション第 3 位、埼玉全国舞踊コンクール 舞踊協会奨励賞、中野国際ダンスコンペティションヴィジュアルプライズ受賞。

根岸一郎（Ichiro Negishi）テノール／アンサンブル

武蔵野音楽大学声楽科、早稲田大学第一文学部仏文専修卒業。パリ第 IV 大学比較文学修士課程修了。アンリ・ソーゲ国際コンクール、日仏声楽コンクール、フランス音楽コンクールに入賞。フランス近代歌曲での評価は特に高く日仏声楽コンクール審査員を務める。東京室内歌劇場、日本フォーレ協会他会員。

町村 彰（Akira Machimura）テノール／アンサンブル

東京大学大学院修士課程修了。現在「聖グレゴリオの家」の教会音楽科在籍中。永井宏氏に指揮法を、青木洋也、大山大輔、T. プファイファーの各氏に声楽を学ぶ。過去にバッハ『マタイ受難曲』福音史家、モーツァルト『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『レクイエム』テノール / バスソリストなどに出演。

吉田 覚（Satoru Yoshida）テノール／アンサンブル

洗足学園音楽大学ファゴット専攻卒業。その後声楽に転向。洗足学園音楽大学大学院声楽専攻修了。オペラでは「こうもり」アルフレード役、「トゥーランドット」ポン役などで出演。英国 STAT 公認 アレクサンダー・テクニーク教師。アンドーヴァー・エデュケーターズ ® 日本公認指導者

片沼 慎（Makoto Katanuma）バリトン／アンサンブル

日本大学芸術学部音楽学科卒業。同大学博士前期課程声楽分野修了。声楽を斉田正子氏に師事。これまでに《ドン・ジョヴァンニ》《フィガロの結婚》《コジ・ファン・トゥッテ》《秘密の結婚》などに出演。藤原歌劇団準団員。日本オペラ協会準会員。日本大学芸術学部演奏補助員。千葉県出身。

田村智仁郎（Tomojiro Tamura）バリトン／アンサンブル

東海大学教養学部卒業。昭和音楽大学院修士課程修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。『偽の女庭師』ナルド役、『セビリアの理髪師』バルトロ役、『フィガロの結婚』アントニオ役、『愛の妙薬』ベルコーレ役、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・ジョヴァンニ役、マゼット役等オペラに出演。

川ノ上 聡（So Kawanoue）バリトン／アンサンブル

鹿児島県出身。国立音楽大学声楽学科卒業。二期会オペラ研修所修了。平野忠彦に師事。これまで「フィガロの結婚」フィガロ役、「コジ・ファン・トゥッテ」グリエルモ役、「こうもり」フランク役などの他、ミュージカルにも出演。喜劇から悲劇まで、役を細かく演じる歌声と芝居に好評を得ている。

高橋雄一郎（Yuichiro Takahashi）バス／アンサンブル

埼玉県蕨市出身。桐朋学園大学トロンボーン科を経て、声楽を志す。二期会オペラ研修所第 53 期修了。これまでに「フィガロの結婚」バルトロ、「魔笛」ザラストロ、「椿姫」グランヴィル、「ラ・ボエーム」コルリーネ等を歌い演じている。現在、東京混声合唱団レジデントメンバー、蕨市音楽家協会会員。

本日前半のプログラムは、19 世紀後半ヨーロッパを席巻したジャポニスムに影響を受けて作曲された、いずれも日本が舞台のオペラです。オペラは 16 世紀末フィレンツェで成立したと言われますが、その本流は現代に到るまでイタリアです。確かにワーグナーやモーツァルトのオペラも重要ですが、世界の歌劇場のレパートリーの中心はイタリアオペラです。本日は「お菊さん」だけがフランスオペラで、日本語の訳詞で歌われますが、他の作品はいずれもイタリア語で歌われます。19 世紀末、日本ではようやく滝廉太郎の荒城の月が作曲された時代に、世界ではすでに本日のオペラが上演されていたことは驚きです。それから 1 世紀余をかけ、私たちの先輩たちがその差を少しづつ埋めて、今日の舞台があります。

◆マスカーニ作曲　歌劇「イリス」

ピエトロ・マスカーニ（1863-1945）はイタリア・リヴォルノ生まれ、ミラノ音楽院に学びます。学生時代、5 歳年上のプッチーニと同居していたことは知られています。1890 年ミラノのソンゾーニョ音楽出版社の主催する作曲コンクールで「カヴァレリア・ルスティカーナ」が第1位を受賞、世界中で大ヒットしました。歌劇「イリス」は 1898 年ローマで初演されました。「イリス」の舞台は江戸の遊郭です。人形町には旧吉原があったということで、ちょっとしたご当地オペラとも言えます。1907 年「イリス」がニューヨークで初演された際には、日本橋出身で、丁度ニューヨーク滞在中の川上貞奴が、日本女性の所作を指導しました。イリスとは、英語ではアイリス（Iris）、アヤメ（菖蒲）のことです。

◆メサジェ作曲　歌劇「お菊さん」

フランス人作家で海軍将校であったピエール・ロティは、1885 年長崎に寄港しました。当地での日本人女性との短い結婚生活を題材に、小説「お菊さん」が書かれ、世界中で愛読されました。小説「お菊さん」を基に、アンドレ・メサジェ（1853-1929）が歌劇「お菊さん」を作曲、1893 年パリで初演されました。歌劇「お菊さん」はその後、主にカナダやベルギーなどのフランス語文化圏で上演されましたが、次第に歴史の影に埋もれました。メサジェは人気のオペレッタ作曲家でした。またメサジェは、ドビュッシーの「ペレアスとメリザンド」の世界初演の指揮者としても音楽史に残っています。

◆プッチーニ作曲　歌劇「蝶々夫人」

ジャコモ・プッチーニ（1858-1924）はイタリアのルッカ生まれ。「蝶々夫人」「ラ・ボエーム」「トスカ」「トゥーランドット」は、今日なお世界中で上演されています。そのプッチーニの出世作は、1893 年に初演された「マノン・レスコー」です。興味深いことに、この年の夏、プッチーニとメサジェは、ミラノのリコルディ音楽出版社の招待で、イタリア・コモ湖畔の高級ホテルに共に滞在して、プッチーニは「マノン・レスコー」を、メサジェは「お菊さん」を作曲しました。互いにスコアをピアノで弾き、影響を受けたはずです。ここでの経験は、その 8 年後、プッチーニが「蝶々夫人」を作曲する際に活かされます。1904 年歌劇「蝶々夫人」のミラノでの初演は歴史的大失敗でしたが、3 ヶ月後ブレシアでの再演は大成功でした。その際、最後の場面で蝶々さんが自決をするように改修しました。1900 年前述の川上貞奴が、夫の川上音二郎とパリ万博でセンセーショナルな上演をして以来、西洋人にとって日本とは、ハラキリ、芸者の国でした。《凡人は模倣し天才は盗む》この言葉は、偉大な画家パブロ・ピカソ（1881-1973）の言葉ですが、プッチーニは確かに天才でした。

◆ ヴェルディ作曲　歌劇「アイーダ」第１幕～第２幕（抜粋）
本日の公演は「アイーダ」序曲とそれに続くシーン、加えて第２幕のバレエシーンは割愛いたします。来年5月の全曲上演のご来場をお待ちいたします。
《あらすじ》
第１幕
　古代エジプトの首都メンフィス、その王宮の一室。ファンファーレが鳴り響き、国王が、高僧や神官、高位高官を引き連れて登場し、今回の征討軍の総大将は、イシスの神のお告げにより、ラダメスに決定したと発表する。するとアムネリスは、喜びの気持ちを込めて合唱とともにラダメスを激励する。大勢が引き上げ、ひとりになったアイーダは、愛する人が勝てば自分の祖国は滅びてしまうし、父の国が勝利すると愛する人を失ってしまうと、矛盾する心理の相克を歌う。有名なアリア、「勝ちて帰れ」である。

ファラオの杖

　場面は火の神の神殿に移り、中央には荘厳な祭壇があり、その前にランフィスや僧侶たちが並んでいる。清めの儀式が始まったところで巫女たちの合唱になり、そしてやがてバレエが展開される。ラダメスがこの場に入場し、ランフィスから神聖な鎧と剣を授けられる。彼らは武運を祈り、僧侶や巫女たちの合唱の荘厳な響きとともに幕は下りる。
第２幕
　第２の都市テーベの宮殿内のアムネリスの部屋。彼女はラダメスの凱旋を迎え、その祝宴に出席するために、念入りな化粧と着付けに余念がない。そこへアイーダが悲しげな表情で入って来る。アムネリスはアイーダの本心を探るため、ラダメスが戦死したと嘘をつく。それを聞いたアイーダが嘆き悲しむのを見て、アムネリスは自分の疑惑が当たっていたのを知り、身分違いの恋は諦めるようにと威丈高に宣告する。アイーダは、自分も実はエチオピアの王女と口に出かかるのだが、ぐっと押さえ、悲しみに耐えながらアムネリスに許しを請う。遠くから凱旋の行進の模様が聞こえ、アムネリスは憤然としたまま退場する。そしてアイーダは１人残り、跪いてひたすら神に祈る。
　テーベの城門。凱旋のラッパが高々と鳴り響き、歓呼して迎える民衆の合唱になる。華やかな「凱旋行進曲」に合わせてエジプト軍が入場する。凱旋将軍となったラダメスは、王より褒美には何がいいかと聞かれ、捕虜たちの釈放をと答える。そこへ捕虜たちが引き出されるが、その中に一兵士に身をやつした国王のアモナスロの姿を見つけ、アイーダは心を痛める。彼はエチオピアの国王は戦死したといって、自分たちを釈放してくれと嘆願する。だがランフィスは復讐を恐れ、皆殺しにするよう強く進言する。結局ラダメスの願いが聞き届けられ、アモナスロだけ人質として残され、あとの捕虜たちは無事釈放される。アモナスロがアイーダの父親だと分かっても、彼が国王だとはアイーダ以外は誰も知らない。最後にエジプト国王は、ラダメスこそ娘のアムネリスと結ばれ、この国を統治するのにふさわしいと述べると、アムネリスは喜び、ラダメスとアイーダは嘆く。登場人物のそれぞれが、自分の気持ちを歌っているうちに幕が下りる。　　(C) 出谷 啓　出典：モバイル音楽事典

日本橋オペラ2022 オペラ・ガラ・コンサート

◆マスカーニ作曲　歌劇「イリス」※太陽賛歌
◆メサジェ作曲　歌劇「お菊さん」
第１幕　フランス軍艦の長崎入港～芸者の登場～勘五郎のアリア
第３幕　南無阿弥陀仏～長崎くんち～あれは鐘～怒りの三重唱～
　　不知火の二重唱～ピエールのアリア
◆プッチーニ作曲　歌劇「蝶々夫人」愛の二重唱
◆ヴェルディ作曲　歌劇「アイーダ」※第１幕～第２幕より（抜粋）
日本語字幕付／※金管五重奏, 打楽器, ピアノによる新編曲
2022年12月3日（土）14:00開演　日本橋劇場（日本橋公会堂4F）

指揮・編曲／佐々木 修　演出／福田祥子　ピアノ／北村晶子
金管五重奏 “ブラス・カブリオール”(Theater Orchestra Tokyo)
トランペット：佐藤秀徳, 林千紗　ホルン：鈴木希恵
トロンボーン：梅澤駿佑　テューバ：田村相円
打楽器：天野佳和

《配役》
福田祥子／ソプラノ／お菊さん役, 蝶々さん役, アイーダ役
村上敏明／テノール／ピンカートン役(蝶々夫人), ラダメス役(アイーダ)
池本和憲／テノール／ピエール役(お菊さん)
森口賢二／バリトン／イヴ役(お菊さん), アモナズロ役(アイーダ)
金子慧一／バス／エジプト国王役(アイーダ)
巌渕真理／メゾソプラノ／アムネリス役(アイーダ)
後藤春馬／バス ／ランフィス役(アイーダ)
飯沼友規／テノール／勘五郎役(お菊さん), 使者役(アイーダ), アンサンブル
高橋千夏／ソプラノ／お雪役(お菊さん), 巫女長役(アイーダ), アンサンブル
森井美貴／ソプラノ／お菊さん役, アンサンブル
宇津木明香音／メゾソプラノ／いちご役(お菊さん), アンサンブル
窪 瑶子／メゾソプラノ／スズキ役(蝶々夫人), アンサンブル

《アンサンブル》
小宅慶子／ソプラノ　石井揚子／ソプラノ　伊藤いずみ／ソプラノ
根岸一郎／テノール　町村 彰／テノール　吉田 覚／テノール
片沼 慎／バリトン　田村智仁郎／バリトン　高橋雄一郎／バス　川ノ上 聡／バス
布目紗綾／バレエ

舞台監督／菅野 将　衣裳／てっしー　ヘアメイク／エイミー前田
稽古ピアノ／ 鈴木架哉子, 松岡なぎさ　照明・舞台／（株）フルスペック
全席自由席　5,000円
主催：日本橋オペラ研究会（中央区社会教育団体）